

軽井沢バス事故の背景にあるものー規制緩和による労働実態を考える

今年1月15日の深夜に、長野県北佐久郡軽井沢町の国道18号碓氷バイパスの入山峠付近で、定員45人の大型観光バスがガードレールをなぎ倒して道路脇に転落する悲惨な事故が発生しました。乗員・乗客41人(運転手2人、乗客39人)中15人が死亡、生存者も全員が負傷する大事故となりました。事故の背景には規制緩和があります。貸し切りバスの事業者は2000年の規制緩和によって、2000年度の2864社から2012年度は4536社に増え、2011年には事業者の7割以上が運転手不足と回答しています。外国人観光客の急増による需要の増加も重なり運転手不足は深刻になっています。人手不足の影響による高齢化、1人当たりの総走行距離の増加、有給休暇の取得日数減少、低賃金など、労働環境の悪化が事故に繋がっています。

「安い商品」の背景にある労働者の置かれている実態をとおして、働くもののいのちと健康について、みんなで考えます。

主催：働くもののいのちと健康を守る全国センター
問い合わせ TEL 03-5842-5601 担当:岡村、仲野

申込先 FAX 03-5842-5602
E-mail info@inoken.gr.jp



日時：2016年5月14日(土)13:00~15:00
会場：平和と労働センター8階民医連会議室
文京区湯島2-4-4
内容：講演「軽井沢バス事故の背景にあるもの」
講師 安部誠治 関西大学教授
各分野からの報告 など

参加費無料

氏名	住所	所属	連絡先	
			電話	
連絡先			メール	
			ル	